

地方創生関連交付金活用事業の実施状況及び評価検証（R7年3月末時点）

○デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）活用事業（令和6年度実施）

No	① 交付対象事業の名称	② 事業内容	③ 事業費 (交付金額) (円)	④アウトプット指標(活動指標)				⑤アウトカム指標(成果指標)				⑥事業評価			
				概要・測定方法	年度	重要業績 評価指標 (KPI)	実績値	概要・測定方法	重要業績 評価指標 (KPI)	実績値					
1	地籍図デジタル化構築事業	・地籍調査後の地籍図について、マイラーのみの保存であったため、地籍図の交付申請があった際はその都度、該当地番のマイラーを探し出し、コピーするため時間を要する点やマイラーを重ねて印刷する際のズレ等が課題となっている。 ・これをデジタル化することにより、窓口に来られるお客様の待ち(対応)時間の短縮と図面の視認性の改善により住民サービスの向上を図る。	5,500,000 (2,750,000)	【窓口待ち(対応)時間】	2024年度末 (R6年度末)	3.0 分/枚	未計測 分/枚	【窓口利用者満足度】	3.0 ポイント	未計測 ポイント	地籍図デジタル化構築事業契約日が令和6年9月25日、納品日が令和7年3月27日となり、令和6年度中の地籍図交付申請実績無し。 令和7年度以降に【窓口待ち(対応)時間】【窓口利用者満足度】について、地籍図の交付申請をした方を対象としてアンケート調査を実施する。 また、地籍図を交付した後に職員に【職員満足度】のアンケート調査を実施する。				
					2025年度末 (R7年度末)	2.5 分/枚	— 分/枚		3.5 ポイント	— ポイント					
					2026年度末 (R8年度末)	2.0 分/枚	— 分/枚		4.0 ポイント	— ポイント					
								【職員満足度】	4.0 ポイント	未計測 ポイント					
									4.5 ポイント	— ポイント					
									4.5 ポイント	— ポイント					
2	窓口キャッシュレス決済事業	・各種証明書の交付と会計のほか、戸籍、住所の異動届の受付、国民健康保険・国民年金の加入脱退など一つの窓口で担当しているため、業務の効率化、住民の待ち時間の短縮、利便性の向上が課題となっている。 ・POSレジの導入とキャッシュレス端末の入替えを行ったうえで双方連動させ、一度の入力で会計処理が完了するようにし来庁者の利便性の向上を図る。	1,100,000 (550,000)	【キャッシュレス決済の利用割合】	2024年度末 (R6年度末)	8 %	6 %	【キャッシュレス決済による来庁者の滞在時間の短縮】	35 %	31 %	利用者が役場でキャッシュレス決済が可能であることを知らなかったこともあり、表示を見てキャッシュレス決済を希望することもあった。そのため、カードやスマートホンの準備に手間取り、時間が経過することもあった。またPOSレジ導入当初は職員が機器の操作に不慣れなこともあり、バーコードをかざす際の案内などがスムーズでなかったこともあり、大幅な時間短縮は見られなかったが、約3割程度の時間短縮につながった。 窓口でのキャッシュレス決済利用のお知らせは窓口カウンターにパネルを設置したほか、現金受け渡しの際に利用するカルトン(皿)にキャッシュレス決済の案内を貼り付けし、周知を図った。 支払い方法の選択ができることで、キャッシュレス決済に対しての満足度は高く、アンケートをとった方全員が「とても良い」「良い」と回答した。				
					2025年度末 (R7年度末)	15 %	— %		50 %	— %					
					2026年度末 (R8年度末)	20 %	— %		65 %	— %					
								【来庁者の満足度】	70 %	100 %					
									80 %	— %					
									90 %	— %					
3	学校図書デジタル環境整備事業	・児童生徒が知識と豊かな感情を育み、創造性を高め、人生をより深く生きる力を身に付けていくうえで欠かせない「読書」をより身近なものとし、学校図書を利用しやすいものとするため、蔵書をデータ化し、貸出、返却作業等の管理を簡素化する。 ・読書傾向の分析、貸出し状況の把握を行う。 ・一人一台タブレットを活用し、児童生徒が自校の図書館の蔵書を検索したり、児童生徒が自分の読書履歴を閲覧できるようにすることで読書活動を推進する。	7,184,650 (3,592,325)	【子ども一人当たりの児童書貸出冊数】	2024年度末 (R6年度末)	小学生 25 冊 中学生 10 冊	小学生 34 冊 中学生 6 冊	【読書が好きな児童生徒の割合】	小学生 66.0 % 中学生 57.8 %	小学生 65.0 % 中学生 65.2 %	子ども一人当たりの貸出冊数は増加しており、一定の効果は得られたものと考えられる。一方で本を読んでいる子は多いが、その割に「読書が好き」と回答した児童の割合が少ないという問題も浮上した。いかに「読書好き」にさせるかが課題となっている。 また、全国学力・学習状況調査の質問項目が変わり、「読書が好きな児童生徒の割合」及び「不読児童生徒の割合」については調査項目がなくなったことから、各校の「学校評価」等で確認。読書が好き・自分から進んで読書をする「毎日読書をする習慣があると回答した児童生徒の割合、及び図書室から一冊も本を借りていない児童生徒の割合により確認した。				
					2025年度末 (R7年度末)	小学生 30 冊 中学生 15 冊	— 冊		小学生 66.5 % 中学生 58.3 %	— %					
					2026年度末 (R8年度末)	小学生 35 冊 中学生 20 冊	— 冊		小学生 67.0 % 中学生 58.8 %	— %					
								【不読児童生徒の割合】	小学生 11.3 % 中学生 48.9 %	小学生 1.6 % 中学生 9.5 %					
									小学生 10.8 % 中学生 48.4 %	— %					
									小学生 10.3 % 中学生 47.9 %	— %					
								【図書紹介の掲示の充実(掲示変更回数 の増加)】	6 回	9 回					
									9 回	— 回					
									9 回	— 回					
				4	LINEを活用したDX・住民サービス向上事業	・既存の公式LINEは、6つのメニュー(防災、子育て、公共交通、ごみ、届出、ワクチン接種)に分かれ、それぞれのメニューから該当するHPへ誘導する機能しか備えていない。また、トークからの一方的な配信のみの機能であり、利用者からの問い合わせなどを受け付ける機能はない。 ・利用者の目的に合わせた通知の受け取りや問い合わせ、各種申請の受付ができる拡充機能を新たに追加するため、「スマート公共ラボ」を導入し、受信設定に応じたメッセージの配信、チャットボット応答、電子申請などの機能を導入し公式LINEを刷新することで、住民の利便性向上と業務の効率化を図り、現在の登録者数の増加を目指す。 ①セグメント配信機能 (受信設定に応じたメッセージの配信) ②チャットボットによる自動応答機能 (住民からの質問にチャットボットで自動対応) ③カレンダー予約機能 (予防接種や施設などの予約申込と受付) ④通報機能 (道路の損傷・不法投棄の通報) ⑤申請・アンケート機能 (申請やアンケートの入力と受付) ⑥電子申請機能 (公的個人認証に対応した住民票の写し等の証明書の申請と受付・手数料のオンライン決済)	6,171,000 (3,085,500)	【大江町LINE公式アカウントの登録者数】	2024年度末 (R6年度末)	800 人		1,031 人	【大江町LINE公式アカウント利用者の満足度】	3.0 ポイント	未計測 ポイント
	2025年度末 (R7年度末)	1,600 人	— 人						3.5 ポイント	— ポイント					
	2026年度末 (R8年度末)	2,000 人	— 人						4.0 ポイント	— ポイント					
								【AIチャットボットとの回答数】	2024年度末 (R6年度末)	150 回	73 回	【AIチャットボットの利用満足度】	50 %	未計測 %	
									2025年度末 (R7年度末)	200 回	— 回		60 %	— %	
									2026年度末 (R8年度末)	250 回	— 回		70 %	— %	
								【オンライン申請の利用件数】	2024年度末 (R6年度末)	60 件	115 件	【オンライン申請の利用者の満足度】	3.0 ポイント	未計測 ポイント	
									2025年度末 (R7年度末)	120 件	— 件		3.5 ポイント	— ポイント	
									2026年度末 (R8年度末)	180 件	— 件		4.0 ポイント	— ポイント	